



雪の中、無火災・無災害を願って
消防車や救急車とともに無火災祈願マラソン

1月4・5日の2日間、亀田町消防署横越町分署の署員が「無火災祈願マラソン」を実施しました。

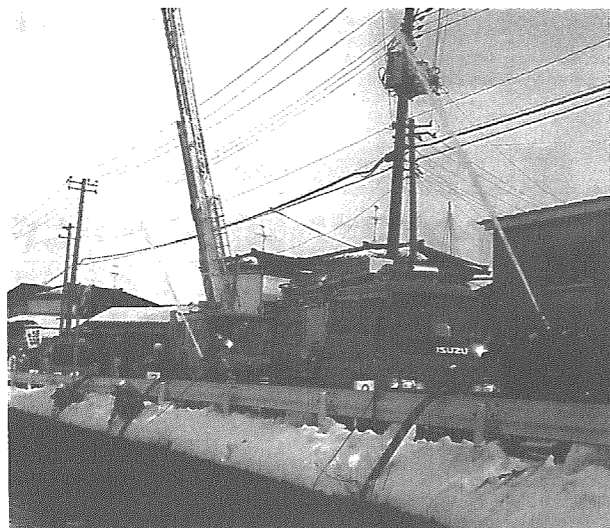
このマラソンは、地域住民と消防署が一体となって、町内が無火災であり、「安全で安心して生活できる町」となることを願って実施するもので、今年で4回目。

出発にあたり、分署では浅見町長から「新しい世紀の幕開けです。新たな気持ちで、健康に留意し、責任と誇りを持って町民の防火意識の高揚につなげてください」とと激励を受けた後、署員19名が「無火災祈願」と書かれたタスキを肩にかけ、消防車や救急車とともに町内20.3kmの雪道を走りながら火の用心を呼びかけました。途中、町内18カ所の神社で、無火災・無災害を祈願しました。

町内全域で火の用心を呼びかける
横越町消防団出初式

1月7日、亀田町消防署横越町分署で、消防団の出初式が行われました。各分団の団員、消防署員などおよそ50名が参加。浅見町長や田村団長から訓示があった後、新潟南警察署長や各地区代表区長などが見守る中、団員たちは12台の消防車や救急車などに乗り込み、パレードに出発。約1時間半かけて町内全域で火の用心を呼びかけました。この後に行われる放水訓練のため、中学校近くの阿賀用水路に到着。サイレンが鳴る中、家族連れなどが、一生懸命に訓練に臨む団員たちの勇ましい姿に見入っていました。

昨年の町内での火災は4件で、住民による初期消火で被害が最小限に抑えられた例もあり、住民ひとりひとりの防火意識の高揚も大切となってきています。



ゆっくりといねいに鉛筆や筆を動かす
小学校で書き初め大会

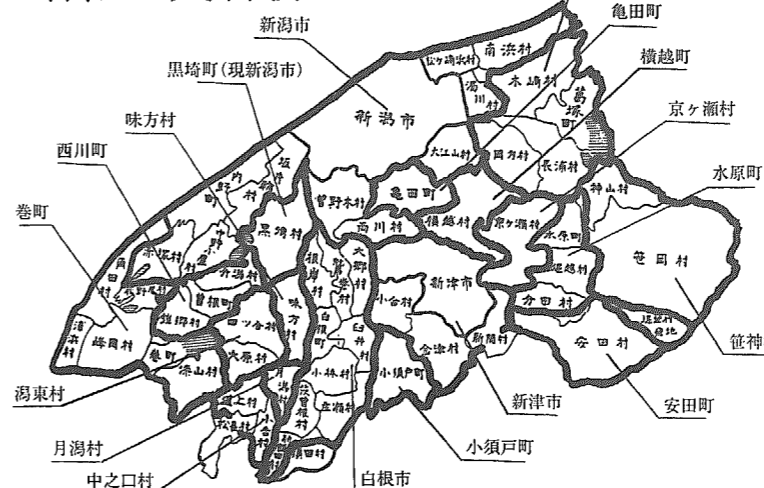
1月11日、小学校で書き初め大会が開催されました。はじめに校内放送で校長先生から「新しい気持ちで、心を込めて、すばらしい作品を作ってください」と話があった後、各教室では、子どもたちが各担任の先生から指導を受けながら、真剣に静かに作品作りに集中し、1・2年生は鉛筆を、3～6年生は筆をゆっくりといねいに動かしていました。

課題は、1年生「みんなで、たのしいお正月をむかえました」、2年生「おぞうにをたべて、新年をいいました」、3年生「日の出」、4年生「雪晴れ」、5年生「雪月花」、6年生「心に太陽」でした。

作品は1月22日から26日まで廊下に展示され、1月24日の学習参観日に、家族の方々に見てもらいました。



昭和の大合併 (新潟地域)



【横越村、亀田町】 両町村の他、大江山、曾野木、両川村は亀田郷として共通の地盤を持つため、合併の土壌は成熟しているものと考えられており、県案でも亀田郷5町村合併が示されていた。しかし、実際には新潟市への依存を強めており、実際3村は新潟市に編入された。29年に亀田町では住民投票が行われて、新潟市合併の意見が75%を占めたのを受け、町議会で満場一致で新潟市合併が議決された。他方新潟市は阿賀野川沿岸地域の合併を進めているので、亀田郷との合併は考慮していないとして、反応しなかった。そのため、県の勧告も受け、自立することとなった。

(新潟県市町村合併事務ハンドブック抜粋)

合併について国から様々な支援が得られる合併特例法の期限が平成17年3月迄となっており、合併の一つの目安にはなるが、合併ありきではなく様々なパターン、合併せず横越町のままか、亀田町と合併するのか、新潟市と合併するのか、政令指定都市をめざし合併を考えるのか等々について、検討も必要ではないかとの意見もありました。いずれにしてもそれらの検討を行うための資料として、自治省(現総務省)のホームページ、県の長期計画や広域市町村圏計画等の資料を提供するように事務局へ要望がありました。

今後の委員会の進め方については、委員全員が発言できる分科会や個別の項目ごとに検討することも考えてはどうかや委員会開催のスケジュールや期間についての意見があり、検討していくことになりました。

県から2月に発表される予定の市町村合併促進要綱(合併パターン)を基に次の委員会を開催する予定です。

市町村合併に関する意見やお問い合わせは、企画財政課までお気軽にお寄せください。

午後4時、たくさんの人たちが見守る中、健康と家内安全、地域の発展などを願って、子どもたちが点火。あつという間に音をたてて燃え上がった後、15分ほどで火が弱まり、竹に針金で吊るして焼いた香ばしいスルメをほおばったり、あつあつの甘酒で体を温めたりして、子どもからお年寄りまで、伝統行事を楽しみました。

また、木津下の金子甚一さんのお宅では、まゆ玉が1月14日から1週間ほど飾られました。まゆ玉はもち米の粉で作られ、ダルマや鯛、米俵、小判などを鮮やかに色付けしたもの。昔はこの家でも飾られたまゆ玉は、今ではあまり見られないということで、近所から孫を連れて見に来る方もいるそうです。これまで町外から買ってきていますが、いずれば自分で作ってみたいと金子さんは話していました。

第2回横越町合併調査委員会開催

12月18日、役場多目的ホールで2回目の合併調査委員会が開催されました。この日の委員会では、前回の委員会で県市町村課より講演のあった、合併の必要性、合併の経緯、合併特例法の内容や今後の委員会の進め方等について審議が行われました。今日の合併の必要性について

では理解できるものの、そのメリットやデメリットについては、黒埼町と新潟市の合併の資料、特に直接住民に関係する税金や使用料等の比較検討の資料の要望がありました。これらについては、更に合併議論が進み合併協議会が設置されますと正式に協議検討されることとなります。

合併について国から様々な支援が得られる合併特例法の期限が平成17年3月迄となっており、合併の一つの目安にはなるが、合併ありきではなく様々なパターン、合併せず横越町のままか、亀田町と合併するのか、新潟市と合併するのか、政令指定都市をめざし合併を考えるのか等々について、検討も必要ではないかとの意見もありました。いずれにしてもそれらの検討を行うための資料として、自治省(現総務省)のホームページ、県の長期計画や広域市町村圏計画等の資料を提供するように事務局へ要望がありました。

小正月行事

1月14日、小正月行事である「さいの神」が町内各地で行われました。藤駒農村公園では、藤山・駒込・うぐいす団地の地域公民館の役員たちによって、当日お昼過ぎから公園の除雪を行い、ワラを編んで作ったトバ、竹、アシなどを組んで高さ5mほどの「さいの神」を作りました。

